

## 明日から私立入試

校長 武井 正明

先週末は大学入学共通テストが行われた。あまり思い出したくないが、自分の時は「共通一次試験」だった（古いねえ…）

二日間に渡って、5教科7科目の試験が行われた。当時も雪の降りしきる中、会場の新潟大学までバスで向かった記憶がある。

全部マークシートで、国数英が各100分、理社は120分1000点満点だった。ひとつひとつ鉛筆で、卵型の数字の枠を黒く塗り潰していく。終わると疲れてぐったりした。

このマークが、実は全部黒いハエで、突然羽を広げて飛んでいったら面白いなど、しょうもないことを考えていた。

その時の記憶から…。

高校で、とても優秀な友達がいた。その彼と試験の朝会った時、明らかに熱があるような、赤い顔をしていた。しかし彼は、鬼気迫る形相で、教室に向かって行った。

後日、彼は高熱だったと聞いた。彼は二日間の試験を乗り切り、二次試験も突破して歯学部合格した。現在彼は、新潟市で歯科医を開業している。発熱というアクシデントを気力で乗り越えて、見事未来を切り拓いたのだ。あれはさすがだった。

試験については、初日の数学が記憶に残る。

問題用紙が配布されて、試験が始まって暫く経つと、音にならない「えっ!？」が教室を覆った。不思議なものだ。集団の心の動揺というものは、眼には見えない空気が動くものなのだと、その時知った。

例えば、答えが「10」だとする。ところが卵型の数字枠は3つ。そういう時は「※10」とマークするルールになっている。ただ「※」は滅多にない。そうなる時は、自分の解答が間違っている場合が殆どだ。

しかし、その数学では、やたら「※」が多かったのだ。そのうち、今年は※が多い出題なのだと確信したが、純朴な高校生たちを、故意に動揺させようとする、見えない出題者の意地悪さに腹が立った。

試験前夜、あのブッチャーが、猪木の猛烈なキック攻撃でノックアウト負けした。試験後帰宅し、ラジオで放送される試験の正答を聴きながら、これは全然ダメだ、と落胆しながらマル付けした…。その夜、山口組の組長と若頭が暗殺された。

吉中受験生の皆さん、入試は何が起こるかわかりません。

予期せぬことが起きたら、大切なのは「執念と冷静さ」です。「絶対に受かる!!」という最後まで諦めない執念と、周りに振り回されない冷静さ、これが大事です。

健闘を祈ります!! 吉報を待ってるよ!